

平成 30 年度決算
富加町の財務書類
(統一的な基準)

令和 2 年 1 月
富加町

報告書に記載している金額や比率については、原則として表示単位未満を四捨五入して表示しております。なお、合計が100%になる比率については端数調整を行っております。

1 新地方公会計制度導入の意義

公会計制度改革は、「発生主義・複式簿記」の考え方を導入することで、ストック（保有）やコスト（資源の消費）情報の取得を可能にし「自治体の資産・債務改革などに資するツールの整備」を目指します。さらに、会計の範囲として一般会計のみならず、特別会計、地方三公社、一部事務組合、第三セクターなども含めた「連結ベース」で管理するものです。

これにより、今までの自治体の会計では得られなかった、「連結ベース」でのストックやコスト情報の取得を可能にし、適正な「資産・債務管理」を目指すものです。

したがって、貸借対照表や行政コスト計算書などの財務書類 4 表や固定資産台帳を作成すること自体が目標ではなく、財務書類 4 表や固定資産台帳等の情報を使って各自治体が創意工夫した経営を行うことが必要です。そして、この財務書類 4 表を住民に対して開示することにより、透明性の向上や説明責任が履行されるとともに、資産・債務の適切な管理を行うことが可能となります。

2 財務書類の概要

1) 貸借対照表

今までに整備してきた道路、公園、学校など、富加町の保有する財産の状況や地方債の現在高などの財政情報をよりわかりやすく提供するため、年度末時点において保有する資産の状況や、将来において負担することとなっている負債の状況を、ストック情報として総括的に表す財務書類です。

2) 行政コスト計算書

地方自治体の行政活動は、将来の世代も利用できる資産の形成だけではなく、人的サービスや給付サービスなどの行政活動が大きな比重を占めています。したがって、1年間に実施された行政活動の状況をコストという側面から把握することが重要です。

行政コスト計算書は、行政サービスに要したコストを収益と対照表示するための一覧表で、行政コストの内容の分析を行うことを目的として、行政全般の活動状況を説明する財務書類です。

3) 純資産変動計算書

行政コスト計算書では、その目的がコスト計算であることから、民間企業の損益計算書の売上高にあたる部分には手数料や利用料などしか反映されていません。そこで、税金等の財源を純資産変動計算書に財源の増加として収容し、純資産の部の計算に含めています。

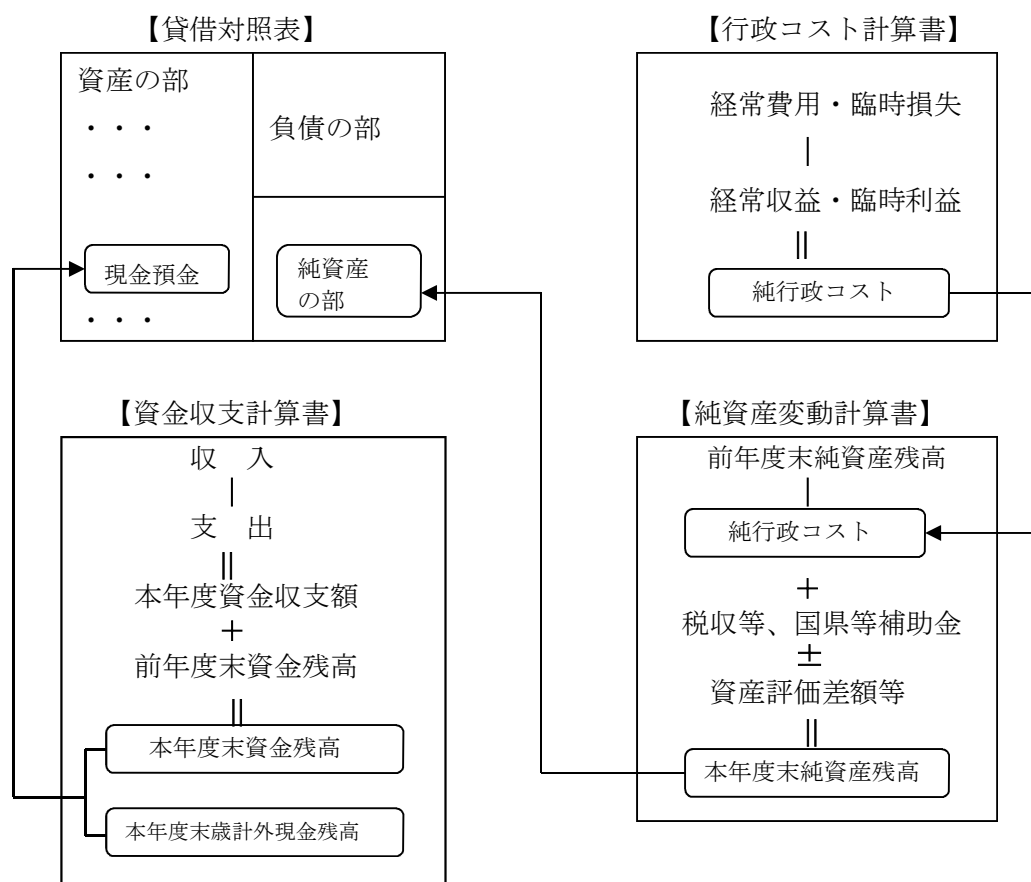
純資産変動計算書は、貸借対照表の「純資産の部」に関して、その各項目の期首（年度当初）からの変動履歴を表す財務書類です。

4) 資金収支計算書

資金収支計算書は、歳入・歳出をその性質に応じて大きく業務活動収支、投資活動収支及び財務活動収支の3つに区分して、1年間に実施された行政活動の状況を資金の流れとして表す財務書類です。これにより、投資活動や財務活動による支出とそれに対応する財源を示し、投資・財務活動収支の状況がどのようになっているのか、また、この2つの収支以外の部分として把握される業務活動収支がどのような状況になっているのかを示します。

3 財務書類4表の関係

財務書類4表の相互の関係は次のとおりです。



貸借対照表の「純資産の部」の変動状況を表したものが、純資産変動計算書です。

純資産変動計算書における純資産の変動要因の主なものが「純行政コスト」と「財源」（税金等・国県等補助金）です。そのうち「純行政コスト」の明細を示すものが行政コスト計算書となります。

資金収支計算書は、資金の動きを表す財務書類であるので、「本年度末現金預金残高」は、貸借対照表の「現金預金」と一致します。

4 財務書類（一般会計等）の状況

1) 貸借対照表の状況

① 資産

平成30年度では総資産は100億円であり、住民（H31年3月31日現在 5,740人）一人当たり174万円になります。その大部分は道路、公園などの社会資本を中心とした有形固定資産76億円（住民一人当たり132万円）であり、その他の資産では、投資等と流動資産に区分されている基金の合計が20億円、現金預金が2億円等となっています。

<住民一人当たり指標> (単位：万円)

	平成29年度	平成30年度	差
総資産	172	174	2
有形固定資産	136	132	△4

近隣自治体との比較 (単位：万円)

	坂祝町(H30)	富加町(H30)
総資産	184	174
有形固定資産	148	132

② 負債

負債の総額は22億円で、住民一人当たり39万円になります。そのうち、地方債現在高は、固定負債の地方債と流動負債の1年内償還予定地方債を合わせて22億円（住民一人当たり38万円）となっています。退職手当引当金は、当該年度末現在一般会計等に属する職員全員が普通退職したと想定した場合（当該年度末に退職した職員を除く）の必要額ですが、平成30年度は退職手当債務よりも退職手当組合の積立金相当額が大きかったため計上しておりません。

<住民一人当たり指標> (単位：万円)

	平成29年度	平成30年度	差
負債総額	42	39	△3
地方債	39	38	△1

近隣自治体との比較 (単位：万円)

	坂祝町(H30)	富加町(H30)
負債総額	33	39
地方債	33	38

2) 行政コスト計算書の状況

① 行政コストと収益項目

平成30年度の経常費用は33億円です。その主なものは人件費の中の職員給与費4.6億円、物件費等の中の物件費11.2億円、移転費用の中の補助金等5.3億円などとなっています。経常収益は2.1億円であり、その主なものは「使用料及び手数料」の0.6億円、「その他」に含まれる退職手当引当金の戻入0.8億円などです。

② 性質別行政コスト

性質別の行政コストの構成では、「物にかかるコスト」が47.2%を占めています。また、「移転支出的なコスト」も35.1%を占めています。そして、この二種類のコストで経常行政コスト全体の約82.3%を占めています。

(単位：%)

構成比	平成29年度	平成30年度	差
人にかかるコスト	21.4	16.8	△4.6
物にかかるコスト	40.6	47.2	6.6
移転支出的なコスト	36.5	35.1	△1.4
その他のコスト	1.5	0.9	△0.6

※移転支出的なコスト…他の主体に移転して効果が発生するコスト

扶助費、補助費等、繰出金、他団体等への補助金等

近隣自治体との比較

(単位：%)

構成比	坂祝町(H30)	富加町(H30)
人にかかるコスト	21.5	16.8
物にかかるコスト	41.2	47.2
移転支出的なコスト	35.6	35.1
その他のコスト	1.7	0.9

3) 純資産変動計算書の状況

純行政コスト30.9億円に対し、税収等、国県等補助金の合計が34.6億円計上されており、3.7億円の財源超過となっています。それらの結果から、期末純資産残高は78億円となっています。

4) 資金収支計算書の状況

平成30年度の業務活動による資金収支では、5.6億円のプラスとなりました。一方、投資活動による資金収支は5.8億円のマイナスとなり、また財務活動による資金収支においては0.9億円のマイナスとなった結果、全体の資金収支（本年度資金収支額）は1.0億円のマイナスとなっています。その結果、本年度末資金残高が1.7億円となっています。

5 財務書類（一般会計等）の分析

① 資産形成度

「資産形成度」とは「将来世代に残る資産はどれくらいあるのか」といった住民の関心に基づく分析の視点です。

○ 歳入額対資産比率

当該年度の歳入総額に対する資産の比率を算定することにより、これまでに形成されたストックとしての資産が、歳入の何年分に相当するのかを表し、自治体の資産形成度合いを測ることができます。

計算式： 資産合計 ÷ 歳入総額
 歳入総額…資金収支計算書の各部の収入の総計と前年度末資金残高の合計

※ 値が大きくなることは将来世代に残る資産が増加していることを意味します

(単位：年)

	平成29年度	平成30年度	差
歳入額対資産比率	3.0	2.5	△0.5

近隣自治体との比較

(単位：年)

	坂祝町(H30)	富加町(H30)
歳入額対資産比率	4.4	2.5

○ 有形固定資産減価償却率

有形固定資産のうち、償却資産の取得価格に対する減価償却累計額の割合を計算することにより、耐用年数に対して資産の取得からどの程度経過しているのかを全体として把握することができます。

計算式： 減価償却累計額 ÷ 有形固定資産（償却資産のみ）

※ 値が大きくなることは資産の老朽化が進んでいることを意味します。

(単位：%)

	平成29年度	平成30年度	差
有形固定資産減価償却率	60.3	62.3	2.0

近隣自治体との比較

(単位：%)

	坂祝町(H30)	富加町(H30)
有形固定資産減価償却率	71.0	62.3

② 世代間公平性

「世代間公平性」とは「将来世代と現世代との負担の分担は適切か」といった住民の関心に基づく分析の視点です。

○ 純資産比率

企業の財務分析において、財務の安全性を測る指標として用いられる自己資本比率に相当するものです。資産合計に対する将来の返済や支出を伴わない純資産の割合であることから、高いほど財政が健全といえます。

また、純資産の変動は、将来世代と現世代との間で負担の割合が変動されたことを意味します。

計算式： 純資産合計 ÷ 資産合計

※ 値が大きくなることは将来世代の負担の分担が減少したことを意味します。

(単位：%)

	平成29年度	平成30年度	差
純資産比率	75.6	77.8	2.2

近隣自治体との比較

(単位：%)

	坂祝町(H30)	富加町(H30)
純資産比率	81.9	77.8

③ 効率性

「効率性」とは「行政サービスは効率的に提供されているのか」といった住民の関心に基づく分析の視点です。

○ 行政コスト対公共資産比率

行政コストの公共資産に対する比率をみることで、どれだけの資産でどれだけの行政サービスを提供しているのか（資産が効率的に活用されているのか）を分析することができます。

計算式： 経常費用 ÷ (有形固定資産 + 無形固定資産)

※ 値が大きくなることは公共資産の活用度合いが上昇したことを意味します。

(単位：%)

	平成29年度	平成30年度	差
行政コスト対公共資産比率	37.2	43.3	6.1

近隣自治体との比較

(単位：%)

	坂祝町(H30)	富加町(H30)
行政コスト対公共資産比率	27.6	43.3

④ 弾力性

「弾力性」とは「資産形成を行う余裕はどのくらいあるのか」といった住民の関心に基づく分析の視点です。

○ 行政コスト対税収等比率

税収などの一般財源等に対する純行政コストの比率をみることによって、当該年度の税収等のうち、どれだけが資産形成の伴わない純行政コストに消費されたのかが分かります。

この値が 100%を上回る場合は純行政コストを税収等の財源で賄いきれていないことを表します。

計算式： 純行政コスト ÷ 財源（税収等 + 国県補助金）

※ 値が大きくなることは資産形成に対する余裕が小さくなることを意味します。

(単位：%)

	平成29年度	平成30年度	差
行政コスト対税収等比率	98.2	89.3	△8.9

近隣自治体との比較

(単位：%)

	坂祝町(H30)	富加町(H30)
行政コスト対税収等比率	115.9	89.3

⑤ 自立性

「自立性」とは「受益者負担の水準はどうなっているのか」といった住民の関心に基づく分析の視点です。

○ 受益者負担比率（使用料及び手数料）

行政コスト計算書の「使用料及び手数料」は行政サービスに係る受益者負担の金額であるので、これを「経常費用」と比較することにより、行政サービスの提供に対する受益者負担の割合を算出することができます。これにより、自治体の受益者負担の特徴を把握することができます。

計算式： 使用料及び手数料 ÷ 経常費用

※ 値が大きくなることは受益者負担が増したことを意味します。

(単位：%)

	平成29年度	平成30年度	差
受益者負担比率	2.0	1.7	△0.3

近隣自治体との比較

(単位：%)

	坂祝町 (H30)	富加町 (H30)
受益者負担比率	1.4	1.7

⑥ 持続可能性 (健全性)

「持続可能性」とは「財政に持続可能性があるか(どのくらい借金があるか)」といった住民の関心に基づく分析の視点です。

○ 基礎的財政収支(プライマリーバランス)

資金収支計算書上の業務活動収支（支払利息支出を除く。）及び投資活動収支（基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。）の合算額を算出することにより、地方債等の元利償還額を除いた歳出と、地方債等発行収入を除いた歳入のバランスを示す指標となり、当該バランスが均衡している場合には、経済成長率が長期金利を下回らない限り経済規模に対する地方債等の比率は増加せず、持続可能な財政運営であるといえます。

計算式： 業務活動収支（支払利息支出を除く）＋ 投資活動収支（基金積立金支出及び基金取崩収入を除く）

※ 黒字であれば持続可能な財政運営ができていることを意味します。

(単位：百万円)

	平成29年度	平成30年度	差
基礎的財政収支	377	474	97

近隣自治体との比較

(単位：百万円)

	坂祝町 (H30)	富加町 (H30)
基礎的財政収支	△101	474

(参考 各財務書類の構成)

貸借対照表の構成

(1) 資産の部
①有形固定資産 ・固定資産台帳データの金額を集計 ・減価償却は、定額法により取得の翌年度から行い、残存価格をゼロとする（土地については減価償却を行わない）
②投資及び出資金 ・市場価格の無い出資金等については、実質価格を算出し、それが取得価格に比べ、30%以上低下した場合には、その実質価格により算出した金額により計上
③貸付金、基金 ・貸付金及び基金の現在高
④長期延滞債権、徴収不能引当金 ・収入未済額のうち、前年度以前に発生した債権について「長期延滞債権」に計上 ・「長期延滞債権」及び「貸付金」のうち、将来回収不能となると見込まれるものを「徴収不能引当金」に計上
⑤現金預金 ・形式収支に相当する「歳計現金」と「歳計外現金」の合計を計上
⑥未収金 ・収入未済額のうち、当年度に発生した債権について計上、そのうち、将来回収不能となると見込まれるものを、「徴収不能引当金」に計上

(2) 負債の部

①固定負債

○地方債

- ・年度末における地方債残高から、流動負債に計上する「1年内償還予定地方債」を控除した額

○退職手当引当金

- ・年度末に職員全員が普通退職したと想定し、その退職手当の要支給額を計上（退職手当組合積立金を考慮）

②流動負債

○1年内償還予定地方債

- ・年度末における地方債残高のうち、翌年度償還予定額を計上

○賞与等引当金

- ・翌年度の6月に支払う予定の期末・勤勉手当及びそれに係る法定福利費のうち、当年度負担相当額を計上

○預り金

- ・基準日時点において、第三者から寄託された資産に係る見返負債を計上

(3) 純資産の部

①固定資産等形成分

- ・資産形成のために充当した資源の蓄積をいい、原則として金銭以外の形態（固定資産等）で保有されている

②余剰分

- ・自治体の消費可能な資源の蓄積をいい、原則として金銭の形態で保有されている

行政コスト計算書の構成

計上項目		内容
経 常 費 用	職員給与費	給料、共済費等から前年度賞与等引当金計上額を除いた金額
	賞与等引当金繰入額	当該年度の貸借対照表に計上した賞与等引当金の額
	退職手当引当金繰入額	当該年度に引当金として新たに繰り入れた額(退職手当組合積立金の増減を考慮)
	物件費	旅費、光熱水費、委託料、備品購入費などの経費
	維持補修費	施設などの維持修繕に要する経費
	減価償却費	固定資産の経年劣化等に伴い、価値が減少したと認められる金額
	支払利息	地方債及び一時借入金の利子支払額
	徴収不能引当金繰入額	町税や使用料などのうち、徴収不能見込額として新たに貸借対照表に計上した金額
	補助金等	各種団体に対する負担金や補助金など
	社会保障給付	障がい者や高齢者に対する援護措置、児童手当等の給付、生活保護などに要する経費
	他会計への繰出金	特別会計など他会計に対する繰出金など
経常収益	使用料及び手数料	当該年度の収入額と、長期延滞債権及び未収金として新たに貸借対照表に計上した金額
臨時損失		費用の定義に該当するもののうち、臨時に発生するもの、資産除売却損、災害復旧事業費など
臨時利益		収益の定義に該当するもののうち、臨時に発生するもの、資産売却益など

純資産変動計算書の構成

計上項目		内 容
純行政コスト		行政コスト計算書における純行政コスト
財源	税 収 等	町税等の当該年度収入額 + 長期延滞債権及び未収金として新たに貸借対照表に計上した額
	国県等補助金	国庫支出金及び県支出金
固定資産等の内部変動		固定資産等形成分と余剰分（不足分）との内部変動を有形固定資産等の増加・減少と貸付金・基金等の増加・減少に分類して表示する
資産評価差額		有価証券等の評価差額
無償所管換等		無償で取得した固定資産の評価額等

資金収支計算書の構成

(1) 業務活動収支
<ul style="list-style-type: none">・自治体の業務活動から発生する資金収支を計上・具体的には、町税、使用料、手数料などの収入と、人件費、物件費、社会保障給付、支払利息、維持管理費などの支出を計上
(2) 投資活動収支
<ul style="list-style-type: none">・支出には、自治体で整備する公共施設等整備費、基金積立金、投資及び出資金などに対する支出を計上・収入には、その財源となる国県等補助金、基金取崩などの収入を計上
(3) 財務活動収支
<ul style="list-style-type: none">・支出には、地方債の元金償還額などを計上・収入には、地方債発行額などを計上

一般会計等財務書類

貸借対照表

(平成31年 3月31日現在)

富加町

(単位:円)

科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	8,544,945,140	固定負債	1,936,088,823
有形固定資産	7,598,859,778	地方債	1,924,831,443
事業用資産	3,970,452,518	長期未払金	0
土地	1,674,437,893	退職手当引当金	0
立木竹	0	損失補償等引当金	0
建物	5,697,236,610	その他	11,257,380
建物減価償却累計額	▲ 3,420,732,620	流動負債	291,102,931
工作物	23,086,571	1年内償還予定地方債	246,430,458
工作物減価償却累計額	▲ 3,575,936	未払金	0
船舶	0	未払費用	0
船舶減価償却累計額	0	前受金	0
浮標等	0	前受収益	0
浮標等減価償却累計額	0	賞与等引当金	36,539,302
航空機	0	預り金	3,994,395
航空機減価償却累計額	0	その他	4,138,776
その他	0		
その他減価償却累計額	0	負債合計	2,227,191,754
建設仮勘定	0		
インフラ資産	3,505,140,593	【純資産の部】	
土地	334,344,962	固定資産等形成分	9,830,480,598
建物	48,993,000	余剰分(不足分)	▲ 2,044,970,797
建物減価償却累計額	▲ 20,822,025		
工作物	8,517,352,768		
工作物減価償却累計額	▲ 5,454,061,267		
その他	0		
その他減価償却累計額	0		
建設仮勘定	79,333,155		
物品	185,190,735		
物品減価償却累計額	▲ 61,924,068		
無形固定資産	16,052,256		
ソフトウェア	16,052,256		
その他	0		
投資その他の資産	930,033,106		
投資及び出資金	186,876,020		
有価証券	8,323,000		
出資金	178,553,020		
その他	0		
投資損失引当金	0		
長期延滞債権	25,289,274		
長期貸付金	22,180,000		
基金	697,432,772		
減債基金	0		
その他	697,432,772		
その他	0		
徴収不能引当金	▲ 1,744,960		
流動資産	1,467,756,415		
現金預金	168,217,377		
未収金	7,989,577		
短期貸付金	0		
基金	1,285,535,458		
財政調整基金	1,219,552,887		
減債基金	65,982,571		
棚卸資産	6,565,284		
その他	0		
徴収不能引当金	▲ 551,281		
資産合計	10,012,701,555	純資産合計	7,785,509,801
		負債及び純資産合計	10,012,701,555

行政コスト計算書

自 平成30年 4月 1日
至 平成31年 3月31日

富加町

(単位:円)

科目	金額
経常費用	3,297,257,224
業務費用	2,141,732,080
人件費	555,074,836
職員給与費	461,088,973
賞与等引当金繰入額	36,539,302
退職手当引当金繰入額	0
その他	57,446,561
物件費等	1,557,174,527
物件費	1,116,443,263
維持補修費	110,968,261
減価償却費	326,013,081
その他	3,749,922
その他の業務費用	29,482,717
支払利息	19,483,649
徴収不能引当金繰入額	1,022,523
その他	8,976,545
移転費用	1,155,525,144
補助金等	533,265,810
社会保障給付	259,852,206
他会計への繰出金	337,273,872
その他	25,133,256
経常収益	209,969,460
使用料及び手数料	55,598,299
その他	154,371,161
純経常行政コスト	3,087,287,764
臨時損失	237,603
災害復旧事業費	0
資産除売却損	237,603
投資損失引当金繰入額	0
損失補償等引当金繰入額	0
その他	0
臨時利益	132,746
資産売却益	132,746
その他	0
純行政コスト	3,087,392,621

純資産変動計算書

自 平成30年 4月 1日

至 平成31年 3月31日

富加町

(単位:円)

科目	合計	固定資産 等形成分	
		固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)
前年度末純資産残高	7,416,030,672	9,519,812,456	▲ 2,103,781,784
純行政コスト(△)	▲ 3,087,392,621		▲ 3,087,392,621
財源	3,456,113,568		3,456,113,568
税収等	3,077,979,612		3,077,979,612
国県等補助金	378,133,956		378,133,956
本年度差額	368,720,947		368,720,947
固定資産等の変動(内部変動)		309,909,960	▲ 309,909,960
有形固定資産等の増加		151,915,992	▲ 151,915,992
有形固定資産等の減少		▲ 326,250,684	326,250,684
貸付金・基金等の増加		484,244,652	▲ 484,244,652
貸付金・基金等の減少		0	0
資産評価差額	733,300	733,300	
無償所管換等	24,882	24,882	
その他	0	0	
本年度純資産変動額	369,479,129	310,668,142	58,810,987
本年度末純資産残高	7,785,509,801	9,830,480,598	▲ 2,044,970,797

資金収支計算書

自 平成30年 4月 1日

至 平成31年 3月31日

富加町

(単位:円)

科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	2,963,441,817
業務費用支出	1,807,916,673
人件費支出	552,273,755
物件費等支出	1,227,411,524
支払利息支出	19,483,649
その他の支出	8,747,745
移転費用支出	1,155,525,144
補助金等支出	533,265,810
社会保障給付支出	259,852,206
他会計への繰出金支出	337,273,872
その他の支出	25,133,256
業務収入	3,527,489,393
税込等収入	3,076,394,125
国県等補助金収入	334,898,408
使用料及び手数料収入	54,941,699
その他の収入	61,255,161
臨時支出	0
災害復旧事業費支出	0
その他の支出	0
臨時収入	0
業務活動収支	564,047,576
【投資活動収支】	
投資活動支出	629,373,714
公共施設等整備費支出	151,915,992
基金積立金支出	470,877,722
投資及び出資金支出	0
貸付金支出	6,580,000
その他の支出	0
投資活動収入	48,868,294
国県等補助金収入	43,235,548
基金取崩収入	0
貸付金元金回収収入	5,500,000
資産売却収入	132,746
その他の収入	0
投資活動収支	▲ 580,505,420
【財務活動収支】	
財務活動支出	248,529,732
地方債償還支出	244,390,956
その他の支出	4,138,776
財務活動収入	163,300,000
地方債発行収入	163,300,000
その他の収入	0
財務活動収支	▲ 85,229,732
本年度資金収支額	▲ 101,687,576
前年度末資金残高	265,910,558
本年度末資金残高	164,222,982

前年度末歳計外現金残高	2,469,034
本年度歳計外現金増減額	1,525,361
本年度末歳計外現金残高	3,994,395
本年度末現金預金残高	168,217,377

連結財務書類

連結貸借対照表

(平成31年 3月31日現在)

富加町

(単位:円)

科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	10,561,539,073	固定負債	2,959,969,646
有形固定資産	9,034,338,494	地方債等	2,148,438,041
事業用資産	4,553,067,206	長期未払金	0
土地	2,086,509,869	退職手当引当金	485,087,251
立木竹	0	損失補償等引当金	0
建物	6,317,904,924	その他	326,444,354
建物減価償却累計額	▲ 3,878,894,379	流動負債	428,317,675
工作物	57,054,649	1年内償還予定地方債等	269,166,605
工作物減価償却累計額	▲ 29,508,541	未払金	106,400,459
船舶	0	未払費用	0
船舶減価償却累計額	0	前受金	0
浮標等	0	前受収益	0
浮標等減価償却累計額	0	賞与等引当金	43,661,257
航空機	0	預り金	3,994,925
航空機減価償却累計額	0	その他	5,094,429
その他	20,525		
その他減価償却累計額	▲ 19,841	負債合計	3,388,287,321
建設仮勘定	0	【純資産の部】	
インフラ資産	4,223,936,686	固定資産等形成分	11,947,368,756
土地	339,328,930	余剰分(不足分)	▲ 2,882,255,468
建物	48,993,000	他団体出資等分	0
建物減価償却累計額	▲ 20,822,025		
工作物	9,755,285,428		
工作物減価償却累計額	▲ 5,981,081,802		
その他	0		
その他減価償却累計額	0		
建設仮勘定	82,233,155		
物品	725,197,228		
物品減価償却累計額	▲ 467,862,626		
無形固定資産	33,390,869		
ソフトウェア	16,052,256		
その他	17,338,613		
投資その他の資産	1,493,809,710		
投資及び出資金	20,049,686		
有価証券	16,998,408		
出資金	3,051,278		
その他	0		
長期延滞債権	44,413,448		
長期貸付金	22,180,000		
基金	1,342,890,675		
減債基金	0		
その他	1,342,890,675		
その他	66,810,986		
徴収不能引当金	▲ 2,535,085		
流動資産	1,891,861,536		
現金預金	414,672,859		
未収金	85,273,937		
短期貸付金	0		
基金	1,385,829,683		
財政調整基金	1,319,847,112		
減債基金	65,982,571		
棚卸資産	7,119,756		
その他	0		
徴収不能引当金	▲ 1,034,699		
繰延資産	0		
資産合計	12,453,400,609	純資産合計	9,065,113,288
		負債及び純資産合計	12,453,400,609

連結行政コスト計算書

自 平成30年 4月 1日
至 平成31年 3月31日

富加町

(単位:円)

科目	金額
経常費用	5,568,259,605
業務費用	2,576,807,234
人件費	667,830,883
職員給与費	557,770,693
賞与等引当金繰入額	43,408,096
退職手当引当金繰入額	▲ 168,990
その他	66,821,084
物件費等	1,827,612,969
物件費	1,316,298,498
維持補修費	127,546,970
減価償却費	379,959,689
その他	3,807,812
その他の業務費用	81,363,382
支払利息	20,162,848
徴収不能引当金繰入額	1,386,051
その他	59,814,483
移転費用	2,991,452,371
補助金等	1,339,149,465
社会保障給付	1,432,839,574
その他	219,463,332
経常収益	366,712,976
使用料及び手数料	171,970,027
その他	194,742,949
純経常行政コスト	5,201,546,629
臨時損失	581,956
災害復旧事業費	0
資産除売却損	581,956
損失補償等引当金繰入額	0
その他	0
臨時利益	227,624
資産売却益	227,624
その他	0
純行政コスト	5,201,900,961

連結純資産変動計算書

自 平成30年 4月 1日

至 平成31年 3月31日

富加町

(単位:円)

科目	合計	固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)	他団体出資等分
前年度末純資産残高	8,716,249,089	11,412,353,293	▲ 2,696,104,204	
純行政コスト(△)	▲ 5,201,900,961		▲ 5,201,900,961	
財源	5,596,906,521		5,596,906,521	
税収等	4,074,950,174		4,074,950,174	
国県等補助金	1,521,956,347		1,521,956,347	
本年度差額	395,005,560		395,005,560	0
固定資産等の変動(内部変動)				
有形固定資産等の増加				
有形固定資産等の減少				
貸付金・基金等の増加				
貸付金・基金等の減少				
資産評価差額	733,300			
無償所管換等	▲ 3,168,880			
他団体出資等分の増加	0			
他団体出資等分の減少	0			
比例連結割合変更に伴う差額	▲ 43,717,699			
その他	11,918			
本年度純資産変動額	348,864,199	535,015,463	▲ 186,151,264	0
本年度末純資産残高	9,065,113,288	11,947,368,756	▲ 2,882,255,468	0